

risei + trip

vol.

06



特集

鍼灸とサッカーの
幸福な関係。

特集

鍼灸とサッカーの 幸福な関係。

Jリーグクラブに所属するトレーナーの
約7割が、鍼灸師の免許を持つそうだ。
なぜ、鍼灸師はサッカー選手に
支持されるのか。その理由に迫った。



2018年は、Jリーグが誕生して25年。この四半世紀の間に、数多くのスター選手が日本サッカーの歴史を変えてきた。同時に、サッカー選手を支えるトレーナーの世界も進化を続けている。中でも現在は、Jリーグクラブに所属しているトレーナーの約7割が、鍼灸師の資格を保有しているという。理学療法士や柔道整復師といった医療免許をもつトレーナーがいる一方で、鍼灸師はサッカー選手にとってどのような存在なのだろうか。

「僕が現役の際は、トレーナーは柔道整復師やあん摩マッサージ師が多かったですよ。鍼灸師に施術を受けたのって、コーチになってからだなあ」

本校サッカーコース教員の高祖和弘は、そう振り返る。高祖はかつてガンバ大阪の前身である松下電器サッカー部に所属、ゴールキーパーとして80年代に活躍した。現役当時は鍼灸師のトレーナーは少なかったが、コーチに転身した90年代以降、鍼や灸の施術を受けるようになってからというもの、ずっと鍼灸のファンだそう。

「何と言っても即効性があるのがいいですよ。試合直前でも、選手の痛みを和らげることができる。次にいいのは、自然治癒力を引き出せるということ。薬を服用するわけではないので、副作用の心配がなく、選手にとっては負担が少ないですから」

女性アスリートにとっての利点。

実際に鍼灸師として、プロサッカー選手のサポートを行っている方にもお話を伺った。なでしこリーグのI-NAC神戸レオネッサにてトレーナーを務める清水亮太さん。本校の卒業生でもある。

「鍼灸は、痛みの緩和はもちろん、筋肉のハリを和らげるので、疲労回復にも効果がありますよ」と語る清水さんは、さらに女性アスリートにとっ

ての利点についても教えてくれた。

「女性特有の疾患に対応できる点です。鍼灸は月経不順や頭痛、腰痛にも効果ありますから。一度、鍼を打った選手に驚かれたことがあります。普段は薬を服用するので、鍼だけで良くなると思っていなかったようで(笑)。そんな発見をもっとしてもらいたいと思っています」

選手の反応がダイレクトに。

本校の鍼灸学科では、学生の技術向上を図るため、隔週でサッカー現場での実習が行われている。実習場所は茨木キャンパスのトレーナールームで、主にサッカーコースの学生や教員がやってくる。彼らは筋肉のハリ、慢性的な膝の痛み、その日の練習で接触して生じた足の痛みなどを訴えることもしばしば。学生は、実際に問診から施術まで、一連の流れを一人で行う。

「きちんと施術しないと、次来てもらえないかもしれない。来てもらっているという感覚で取り組んでいます」

鍼灸学科の学生がそう真剣な表情で話す一方で、部屋を後にする選手はどこか足取りも軽く、ある選手は、「練習後の足のだるさがなくなりました」と嬉しそうに話していた。

学校での実習の授業と違い、学生がブレい直後のアスリートに対して鍼を打ったり、灸ができたという環境は非常に珍しい。選手の反応もダイレクトに返ってくるため、学生にとっては貴重な学びの場である。

鍼灸師の国家試験が初めて実施されたのは、奇しくもJリーグ誕生の年。鍼灸師は、これからもサッカーと共に歩み続ける。



photographs by Naohiro Kurashina



(左下)清水亮太トレーナーは、過去に1か月間オランダとドイツに渡りサッカーのプロチームを見学。現地では選手に鍼を打つ機会もあり、日本の鍼への反応は良好だったそうだ